

オルガテクノ大賞 2006 – 材料・素材部門賞を受賞

7月25～26日に、パシフィコ横浜で開催された「オルガテクノ2006」有機テクノロジー展示会&国際会議(主催:有機テクノロジー実行委員会)において、界面ナノアーキテククス研究センター(清水敏美センター長、浅川真澄主任研究員、小木曾真樹研究員)が展示出品した「オーガニックナノチューブAIST」がオルガテクノ大賞2006-材料・素材部門賞を受賞しました。この表彰は、従来のテクノロジーを根底から覆す可能性を秘めた先端材料、先端応用技術に対して授与されるものであり、今回、オーガニックナノチューブの新規大量合成法の開発がその榮譽に値すると認められたものです。実際に展示ブースまで来られたノーベル化学賞受賞者である野依良治博士を選考委員長とする選考委員メンバー10名により決定されました。

当有機テクノロジー展は、有機系材料分野に関係する各種学会や研究会、そして関連業界を横断的に組織した世界的にも初めての展示会として昨年創設されたものです。



オルガテクノ大賞各部門の受賞者(前列)と選考委員会メンバー(後列)



開発者である、(左から)小木曾研究員、清水センター長、浅川主任研究員

つくば奨励賞を受賞

9月28日につくば国際会議場にて、第16回つくば奨励賞の表彰が行なわれました。

この表彰は、研究者の創造的な研究活動を奨励することを趣旨として、財団法人茨城県科学技術振興財団が主催しているもので、今回、若手研究者部門においてエレクトロニクス研究部門の齋藤秀和研究員が受賞しました。受賞の対象となったテーマは「新規強磁性半導体を用いたデバイス応用に関する研究」です。これは、将来の究極の電子デバイスと考えられている不揮発性トランジスタ(スピントランジスタ)の開発を目的とした研究です。具体的には、(i) 全半導体トンネル磁気抵抗素子、(ii) 世界最高性能の強磁性半導体の開発にそれぞれ成功しました。今回の受賞は、以上の成果により、これまで開発上の行き詰まりを見せていたスピントランジスタの実現に道を拓いた点が評価されたものです。



受賞記念講演をする齋藤研究員



江崎玲於奈氏と若手研究者部門受賞者。右が齋藤研究員